

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273500155		
法人名	社会福祉法人はつらつの里		
事業所名	グループホームはつらつ宮の原		
所在地	千葉県八街市山田台宮ノ原966-2		
自己評価作成日	平成26年2月27日	評価結果市町村受理日	平成26年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ACOBA
所在地	千葉県我孫子市本町3-7-10
訪問調査日	平成26年3月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、ゆとりある時間と住居の中で、個性を尊重した家庭的な環境の下で、入居者様おひとりお一人が楽しく生き甲斐のある生活を実現できるようお手伝いいたします。温もり・家庭・馴染み・笑顔・怒の心を理念に掲げ全職員で共有し合いより良いサービスを実践できるように努めます。
 ・一年を通して地域のお祭りやカラオケ発表会等に積極的に参加し、また近隣の商店・スーパーへ日常的に出掛け地域住民との交流を図り、継続的に信頼を深めてまいります。
 ・ご家族と共に参加していただける行事や外出する機会を数多く計画し、より深いご家族とのつながりを大切にいたします。
 ・畑で野菜や草花を育て、毎日の水遣りから草取り、収穫までの喜びを感じて頂き、季節感あるお食事を楽しんでいただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

福祉分野で33年の実績を持つ社会福祉法人「はつらつの里」を母体としている。一般の民家を改築した2階建て、1ユニットのホームで、開設14年目となる。入居者は広い廊下やフロアの雑巾がけ、食事の準備など、これまで家庭でやってきたことをそのまま当たり前のよう継続して行っている。岩風呂での入浴、磨かれた廊下と上り框など、毎日の生活の中に時間がゆっくり流れる昔の馴染みの環境が再現されていて、「温もり・家庭・馴染み・笑顔・怒(思いやり)の心」の理念(里訓)が実感できる。入居者全員が系列の老健施設にあるリハビリセンターに通い、心身の健康増進に努めるなど、グループの強みを生かした実践ができています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念や毎年度の目標をホーム内に掲げ、全職員で実践及び評価を行っている。 毎年、年初めに倫理研修を実施し、全職員で共有している。	「里訓」と呼んでいる理念をベースに年初めに倫理研修を行い、全職員は自己分析や抱負を記述して提出し発表している。これにより行動指針でもある、職員の「自己覚知」を促し、理念の共有を図ると同時にサービスの「スキルアップ」につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な買い物や地域のカラオケ発表会・お祭り等に出掛け、地域の方々との交流を保っている。	法人の別の施設と合同で行う新年会や初経賞味会には300人もの地域の方の参加がある。日常的に近所の方の来訪があり野菜を頂いたり、お茶を楽しんでいる。夏祭りなどの町内会の行事にも積極的に参加し交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	定期的に地域の方々に施設を訪問していただき、認知症の理解を深めていただく機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価、自己評価の結果を基に推進会議で話し合い、サービス向上のための討議の場として生かすことができるよう取り組んでいる。	家族、民生委員、地域包括等の参加を得て年に2回開催している。筍賞味会や芋煮会の行事に合わせて行い参加しやすい工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	自己評価の結果、入居状況などについて相談など、法人広報誌を届けながら市担当者と面談している。	市の高齢者福祉課とは日常的な連携をとっている。年に3回発行する法人の広報誌「はつらつだより」を持参し、ホームの状況報告や情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年間研修計画の中にもあり、内部研修会などで全職員が理解しており、身体拘束、行動制限の制止をしないケアに取り組んでいる。	非常勤の職員も含め全職員に研修などで周知させている。食事も含め、どんな行動にも時間の幅を持たせ、たとえば夜寝られない方とは一緒にリビングでおしゃべりをするなど行動の強制や制止をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日朝・夕の申し送りや、職員会議、ミーティングなど、職員間で話し合う場を設け、研修会などで周知徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修会などで、全職員が理解できるよう努めている。 制度利用が必要な入居者様には説明し、関係者との話し合う機会を支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に説明を行い納得を得た上で契約の締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様の意見や要望などは職員会議やカンファレンスで話し合いされる。ご意見箱を設置している。また法人で年3回、第三者委員の訪問による苦情相談を実施している。	行事の際など面会時に現状報告や方向性について話し合い、出された意見や要望については職員会議などで共有し検討している。アンケート調査でもサービスに対して高い評価が示されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常的に全職員とコミュニケーションが取れている。 職員会議やミーティングで意見を述べる機会があるとともに個別面談も定期的に行い、意見を反映させている。	こじんまりした家庭的な雰囲気であり、日常的に職員間のコミュニケーションは良くとれている。職員には介護福祉士の資格を取得するよう支援している。入居者とは自分の親のように接し、職員は蔭の存在に徹するよう指導しており、「怒のころ」の大切さを伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務評価を定期的に行っている。 各自が向上心をもって働けるように環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の運営方針・施設方針を掲げ、職員のキャリアアップの為にバックアップ体制ができています。 研修参加者の研修内容を伝え職員間で共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内の管理者、計画作成担当者交流会・研修会など情報交換の場への参加を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申請時本人と面談又は自宅に訪問し、本人の不安や要望に耳を傾け信頼関係作りに勤めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の面接同様、申請時や訪問時に家族の不安や意向を伺い、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談、インテーク時に要望や現状を把握した上でケアマネや関係者との連携を取りながら必要なサービスが受けられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や庭仕事など日常のことから年中行事の仕方、長年習慣になっていることなどその時々相話し教えていただき一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会やケースカンファレンスなどの機会を通し、意見交換を積み上げるように努めている。また本人と家族・職員が一緒に過ごせる場作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	町内の商店へ買い物、お祭りなど昔馴染みの場所や行事に出掛け、馴染みの人との関係継続に努めている。 親類や知人の方が日常的に訪問され、昔からの関係を保っている。	買い物や散歩、行事などで顔なじみの方とよく出会い話を交わしている。親類や知人の方がぶらりと立ち寄りたり、野菜を頂くなど、馴染みの関係が続いている。法人の新年会や初経賞味会、毎週通うリハビリセンターでの新しい出会いも生まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の能力に応じ家事に参加し、お互いが協力し合えるよう見守りしている。新聞を回したり、食事の配膳をしたり、お茶を入れあったりしながら、くつろいで過ごしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にはご家族の不安な気持ちを感じ、今後いつでも心配なことがあれば連絡くださいと伝え、退去後も不安なく他のサービスに移行できるよう支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的なコミュニケーションで思いや希望を把握するよう努めている。 日常の会話やしぐさ、表情などから本人の意向を汲み取れるよう努力し、職員間で検討している。	職員は日々の生活の中でゆっくり焦らず話を聴くことを心掛け、言葉の少ない方は仕草や表情から真意を汲みとっている。職員が穏やかに対応しているため利用者の表情も穏やで明るい。声のトーンによる心の動揺や不穏にも配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境、サービス利用経験などはほぼ把握できている。 本人の話を聞いたり、ご家族来所持に必要な情報を得、基本情報・ケア対応に反映している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は業務に入る前に記録の確認をしている。 朝、夕の申し送りでも把握している。個々に個別的な生活プログラムを作成している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間での話し合い、ご家族からは面会に来所された際などに意見や要望、今後の方向性などを話し合い介護計画に反映させている。	担当職員は決めず、日々の生活記録を基に職員全員で利用者の情報を共有している。より良い方向性を話し合い、具体的に介護計画に反映している。変化に気づいた時は素早くカンファレンスして計画を見直し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の様子や現状、思いが分かる記録を残せるよう心がけている。 介護計画見直しのときは、全職員で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族との外出、外泊には柔軟に対応している。定期的に面会のある入居者様も多く、ご家族との協力関係を保っている。 専門医受診の際、ご家族様の介護負担を考慮し、受診介助を実施するなど柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今できる可能な範囲で、民生委員、警察、消防、近隣住民の協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人及びご家族の意向を伺い確認している。 専門医受診などの家族対応の方には日々の様子を手紙に記し、適切な診療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医への受診の際は職員も同行して日々の生活、身体状況を説明している。協力医療機関へは月2回の通院介助をし、診療の内容や治療方針を家族にも伝えている。訪問歯科医の治療と口腔ケアを受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時及び状況によっては協力医の指示の基、法人施設の看護師の協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居時には、病院関係者やご家族と情報交換を蜜に安心して治療ができるようまた早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在は、ターミナルケアは実践していない為当ホームでの対応が難しいと考えられた場合は、協力医療機関又は老健施設への入所などを薦めている。	ホームの方針として看取りはしていない。重度化した場合については、家族と主治医を交え話し合っている。ホームでの対応が難しくなった場合は協力医療機関や老健施設への入院、入所の支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの再確認や内部研修で職員全員で把握できるよう努めている。 応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を年2回実施している。 火災通報連絡網に法人施設の協力体制を築いている。	消防署の協力で利用者も参加し消火・避難訓練を実施している。法人施設が近くにあり協力体制が構築されている。町会の隣り組の協力も要請している。火災通報システムで、消防署及び法人との密な連携が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳、プライバシーの確保については、内部研修、マニュアルなどにより職員全員が認識しており実践できている。	一人ひとりを尊重し自立心を大切にしている。声掛けの時は言葉を選び「さりげなく、目立たず」が実践されている。辛抱強く待つことで自己決定を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるだけ多くの場面で希望を伺い、自己決定を促すよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々その日の体調や気分などを見極め声掛けなどで意向を確認しながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に本人の希望を聞きながら支援している。 日ごろから季節や場に合わせて身づくりの援助に心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使いメニューに合わせた器を用いて調理や盛り付け、配膳など役割分担があり、それぞれの得意なところを生かすことができるよう支援している。	食事は旬の食材を使い手作りしている。利用者は下拵えや調理、盛り付けをそれぞれの得意なこと、したいことで役割分担している。美味しく、食べやすい、味にこだわった食事が提供されている。嚥下体操や口腔ケアで、口から食べられることの喜びに繋げている。	お餅は現在の高齢者の、食における馴染みの原点でもあるので、年に数回行われている餅つき会は今後も継続されるよう期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養バランスや食事形態(キザミ食・ミキサー食・粥食)などに配慮した食事作りに努めている。 食事量や水分量はチェック表に記録しており、申し送りで情報を継いでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを行っている。 状態に応じ協力歯科医院への報告、相談、来診など連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し声掛けによりトイレ誘導、夜間も声掛けにより失敗がないよう、自尊心を傷つけないような声掛けを行っている。(なるべくオムツを使用しない様心がけている)	排泄リズムを把握して、声掛け誘導もそっと行い、他の人に分からないように気配りをしている。自発的にトイレに行くことを含め自己決定できるように、紙パンツを使い自立を進めている。下肢筋力の衰えを防ぐ体操でトイレでの排泄が持続できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜の多い食事や水分をこまめ取るなど、個々にあった方法で支援している。また毎日継続的にリハビリ体操や散歩に出掛け運動への働きかけを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の身体能力の低下や認知症の重度化により拒否することがあり、気長に声掛けしながら個々の希望にあった入浴の支援をしている。	週に4回の入浴ができている。温泉場を思い出す岩風呂は、庭の景色を見ながら入浴出来、開放的で気の合った同志の入浴もできている。身体状況によってリフト浴も可能で、シャワー浴も適宜対応している。	岩風呂の良さを保ちながら省エネの方法について検討されることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡や休息、就寝時間帯それぞれ個々に合わせ安心して休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、副作用、用法、用量について全職員は理解している。服薬は個々にあった方法で支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割、楽しみごとにより充実した時間を感じ、気分転換できるよう支援している。毎朝コーヒータイムを楽しまれる方も多い。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に地域の商店やスーパー、外食などに出掛けたり、芝居や花見に出掛けたり、本人の希望を考慮した外出に努めている。	スーパーへの買い物、カラオケ大会にと本人の好きなことを応援している。俳句を詠む方の作品は、職員も協力して見事な句集となり文化祭に出展されている。毎週系列のリハビリセンターへ通い、SPの指導で脳トレ、筋トレ、回想法を取り入れた認知症の進行を抑える積極的な支援がされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理能力に応じた支援を行っている。職員と一緒に買い物に行き支払いする方もいる。お金を所持していることで安心する方は、小額であるが所持しており、トラブルにならないように職員が気配りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望がある場合は相手方に失礼にならない時間帯で対応。 手作りの年賀状や暑中見舞いを送る支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールに季節の花を飾り、四季を通して季節を感じる事ができる工夫をしている。 ホール内の壁に季節を感じる製作物や楽しかった思い出を飾っている。居間や居室は光を多く取り入れる工夫や壁の色等にも配慮している。	玄関を入ると磨かれた廊下と上り框が目に入ってくる。朝の掃除は、雑巾を固く絞り棧の一つまで拭き清められている。掃除の後のすがすがしいホールで揃ってお茶の時間を楽しんでいる。敷居や段差は、身に着いた注意力の維持に役立つと考え見守り支援をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの所々に気軽に腰掛けることができる椅子を配置したり、足を伸ばして横になったりとゆっくりと過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力して頂きなじみの品物を持参していただいたり、ご家族の写真を飾るなどしている。	「この家だったら居ても良い」の気持ちで入居した方が多く、好きな物に囲まれ過ごしている。家族の写真や大型TVを置いた方、それぞれ個性的な部屋となっている。ドアは部屋ごと違ったデザインで、自分の部屋が解りやすい配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の力が発揮できるよう安全な環境作りに努めている。		